

半導体漫遊記

302

湯之上隆

「養老孟司の名著に『バカの壁』(新潮新書)がある。その中に「自分が知りたくないことについて自主的に情報を遮断してしまっている。ここに壁が存在する」とある。そして、これが「一種のバカの壁」であると書かれている(同書の14ページ)。

筆者は、半導体にもバカの壁があると思っ

いたりにしているが、実

て、設計と後工程の

え立っていると思われる

り、TSMCがボトル

ていることを感じ取っ

それは、クルマ産業が

なっていると思われる

半導体のバカの壁

クルマ産業は越えられるか

けで、まるで宇宙語を

あるのだから、業界の

を実感した。

して、ほんの少し前ま

で調達本部長を務めて

いた役員から「何で我

れなかつたクルマメー

筆者は、半導体にも

バカの壁があると書

かれている(同書の14

ページ)。

筆者は「機動的に生

産量を増減できない半

導体にジャスト・イン

バカの壁は半導体業界

内にもたくさんある。

筆者は前工程の微細加

工技術者だったが、そ

の前後の設計と後工程

には土地勘がない。従

な口調で本コラムを書

巨大なバカの壁がそび

えている

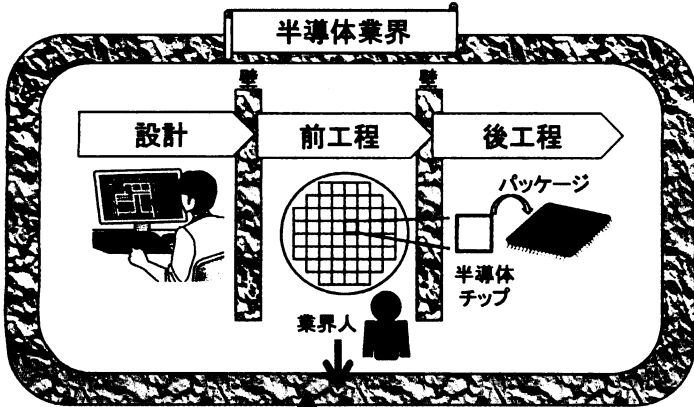
この発言に、トヨタ自

動車(の元調達本部

長)が半導体を見下し

ている

る。



半導体のバカの壁

果たして、トヨタ自

動車をはじめとする日

本のクルマメーカーは

大丈夫なのだろうか?

(微細加工研究所・所